

自己評価結果等報告書

令和 8 年 2 月 12 日

1 事業所情報

事業所の名称	一般社団法人みかさの里 放課後くらぶエイト		
事業所番号	4650004692		
事業の種別	☐	児童発達支援	☒ 放課後等デイサービス
所在地	鹿児島県出水市本町23-7		

2 公表状況

公表日	令和	8 年	2 月	日
公表方法	☒	ホームページ	(URL	mikasanosato.net)
	☐	会報等	(	)
	☐	その他	(	)

3 自己評価事務担当者情報

担当者名	澤田 昭彦
連絡先 (TEL)	0996-79-3177

※公表している自己評価表を添付すること。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後くらぶエイト		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 1 月 20日 ～ 令和 8 年 1 月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2 2 名	(回答者数) 2 1 名 (95.4%)
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1 月 20日 ～ 令和 8 年 1 月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 名	(回答者数) 7 名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 2 月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子供に寄り添う支援を目指す 常に子供の立場に立ち、子供目線での声掛けや促しを行い、共に考え、共に行動し一つでも多くの成功体験を積んで貰う事を目的に日々の支援に努めている。	日々の療育を通してそれぞれが持つ課題の克服や、成長を促せるような支援を行うと共に、子供達が意欲的に関われるような活動に取り組んで行く。同時に個別支援の時間を増やし子供一人一人に向き合う療育を目指す。	保護者を始め、関係機関とも手を携え情報共有を行い、支援内容の精度を上げるを目指します。
2	本人支援と共に、家族支援にも重きを置き、保護者との関係構築を図る事で、密接な距離での情報交換が出来ている。	面談時以外、送迎の際など極力言葉を交わす事で事業所での過ごし方等をお伝えし、賛同や家庭での様子など引き出せるようにしている。	保護者の都合により開催が難航している「保護者会」の開催に注力して行く。複数の開催日を設定し、1組でも多くの出席を確保する。又、内容のあるイベント等を催し保護者が一堂に会する機会を創出する。
3	利用者同士の関係性が取れている。	幅広い年齢層の為、年下の子は年長さんを慕い、年長さんは年下の手本になるような行動を意識し面倒を見てくれている。	其々が調和を図れるように、又、それぞれの課題に適応して行けるような組み合わせや関係性を構築し、支援に反映して行く。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流がうまく出来ていない。	老健施設の慰問、同一法人内での交流は図れているが、外部とのパイプが構築されておらず実施に至っていない。	関係機関等も含め、他事業所へのアプローチとして職員同士の見学、交流を実現し絆を深めた上で児童通しのふれあいの場を設ける。又、その先にイベント等の同時開催等も盛り込んで行く。
2	保護者同士の交流、横の繋がりが薄い。 行事、訓練又、日頃の事業所での過ごし方など上手く保護者に伝わっていない。	保護者会の日程調整が困難であった。 日々の連絡帳やラインでは中々すべての保護者に伝わり辛かった。	保護者参加型のイベント企画、訓練等も盛り込むようにする。 保護者会も複数日設定し、すべての保護者に参加を促す。
3	支援の質、支援方法等について、現状にあっているか。	活動内容について5領域に沿った内容を工夫して行っているが利用者にどれくらい浸透しているか疑問に思う事がある。	その日の活動の趣旨に合った課題を持つ児童をメインに据え支援を行って行く。それ以外については専門的支援の実施を行う事でカバーして行く。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後くらぶエイト

公表日 令和8年2月12日

利用児童数 22名

回収数 21名 (95.4%)

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	20			1	活動の様子を見る機会が少ない為分からない	事業所面談の際は、出来るだけ活動の様子を見て頂いたりして納得頂いていると判断している。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。		21			職員が何名か分からないので判断しにくい。	基準に則り職員配置は行っている。又、専門職員の配置も同様に行っている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。		19		2	手すりは見た事がある。	導線に応じた手すりは備えている。又、建物の構造上危険リスクの感じられるところには職員を配置。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。		18		3	子供達から特に居心地について聞いたことは無い。	活動内容に添って導線を引いたり、空間設定を行いながらスムーズなレクリエーションが行えるように工夫している。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等にに応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。		17		4	面談時のお話や家での行動など見ていると出来る事が増えたなど感じる事はある。	通常の支援内容で足りないと感じる所は職員間ミーティング等により専門職員の個別支援で補っている。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。		5		16	日々の連絡帳等で活動内容であったり子供たちの反応を聞いてはいるが、マッチしているかは分からない。	支援の基本である5領域に則した内容を盛り込んだ活動を行っている。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21				面談時に丁寧に説明を受けている。	モニタリング時のみならず、期間途中で相談を受けた場合、計画の見直しやペアレントトレーニングを行い個別支援計画に反映させている。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21				計画書の説明時に聞いている。	モニタリング時のみならず、期間途中で相談を受けた場合、計画の見直しやペアレントトレーニングを行い個別支援計画に反映させている。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。		2		19	活動の様子を見る機会が少ない為分からない	支援の基本である5領域に則した内容を盛り込んだ活動を行っている。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。				21	活動の様子を見る機会が少ない為分からない	活動を主導する職員を後退させながら内容が形骸化しないよう工夫している。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。		10		11	あまり聞いたことはない。	同一法人内の児童発達支援事業所との交流はあります。今後それ以外の児童クラブ等との交流も企画したいと考えてます。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21				契約の時に説明を受けました。	利用者負担額については、毎月代理受領書に署名を頂く際に説明を行っている。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。		5	12	4	受けていない。	毎月配布する「お便り」に活動計画を示しお渡しはしているが、逐一の説明は行っていない。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。			3	18	保護者会を始め、家族が交流する機会はない。	各家族様個人面談等ではご相談であったり、情報の共有は図らせて貰っている。早急に保護者一同に会する場を創りたい。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	16	2		3	面談時はよく話を聞いて貰ったり相談に乗って貰っている。	全保護者迄とは行かないが、ある程度理解を共通出来ていると思っている。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16	5			多方面について色々話をさせて貰っている。	各家族様個人面談等ではご相談であったり、情報の共有は図らせて貰っている。早急に保護者一同に会する場を創りたい。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6	10	3	2	正直、どうなのかわからない。	ある程度同調は出来ているとは思っているが、保護者との距離感もまた大事ゆえに節度を以て受け答えはしている。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	6	8	3	夏祭りなどには、家族、兄弟と呼んで貰って楽しめましたが、家族会は過去何度かありましたが、出席は少なく交流は出来ませんでした。	保護者様の都合が中々合わず、日にちの設定に苦悩している早急に検討したい。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2	4	12	3	面談時以外に相談や申し入れなど余りしていない。窓口があるのかわからない。	苦情相談窓口は設置し体制は構築しているが、それ以外の窓口は特に設けていない。只、どのような相談、申し入れも常時対応する構えは出来ている。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。		6	8	7	分からない。	日々の連絡帳に記載できるものは記載し、情報ツールとして活用はして貰っている。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17	2		2	ホームページでは時々園外活動の様子などを見ている。	ホームページ、インスタグラム等SNSなどで活動内容等の発信は行っている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20			1	気を配っていると聞いている。	コンプライアンスに則って重視している。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1		2	18	緊急時とか防犯に関しては分からないが、感染症についてはプリントで説明してもらった事がある。	周知徹底にまではいた至っていないが、重要事項の説明を通して一通りは行っている又、感染症、防災訓練は実施している。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	3		7	行われていると聞いたことは有るが実際に見た事は無い。	感染症、防災訓練は実施している。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1	5		15	安全確保の計画は聞いたことが無い。	利用者の特性を考慮した上で、常に危険リスクが発生しないように留意している又、園外活動等に於いても同様。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2		13	6	事故等があった際はすぐに連絡を貰っている。	あってはならないが、万が一にも発生した場合には早急に対処している。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18	3			利用を楽しみにしている。	行き渋り等保護者より訴えは無い。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18	2	1		利用を楽しみにしている。	行き渋り等保護者より訴えは無い。
	29	事業所の支援に満足していますか。	17	2	1	1	特に問題はない。	100%の満足を頂けるように努めます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後くらぶエイト		令和8年 2月 12日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用人数や活動内容に応じて、支援室のスペースを調整している。	少人数のグループ分けを行い、スペースを有効に活用するやり方等検討の余地あり。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準配置を遵守した上で余裕を持ったシフトは組んでいる。	急な欠員が出た場合の応援体制の構築。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		危険と思われる場所には常に職員を配置。安全を確保できる環境設定は行っている。	子供の特性等を考慮し危険が生じないような導線の引き方、或いは空間設定が今以上に細かな配慮が必要。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清潔さについては常に心掛けている。又、活動に応じた空間利用は常に心掛けている。	まだ支援スペースに不要な物も現存している。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		活動内容によって指導室を分ける事はあるが常設はしていない。基本、集団活動がメイン。	専門的な支援を行う時や個別に児童と話をする場合は別室を使用する事があるが、児童が自由に使用できる個室は無い。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日の朝、夕のミーティング等により職員全員の意見交換を行っている。又、それ以外に定期的なカンファレンスを実施し利用者の支援に反映している。	業務改善推進向上を目指す委員会の立ち上げを行い支援のスキルアップを図る。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表からのご意見等があった場合は真摯に受け止め、且つ即対応している。	評価表のみならず、広く事業所評価を求めるべくSNS等も使用しているが反応が今一つ。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日の朝、夕のミーティング等により職員全員の意見交換を行っている。	定期的に本社一丸となって個人面談等も行い職員のモチベーションアップを促している。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在は検討段階である。	第三者委員会は組織的に行う方向で検討中。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内でのOJTを始め各職員のスキルアップの為にOFFJTへの案内、資格取得の為に助成など積極的に推進している。	業務の都合により外部研修への参画は少ない。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		各事業所のプログラムに則り日案、月案の作成を行っている。	定期的な見直しが必要。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		定期的な保護者面談に加えて、各媒体の情報ソース、送迎時の申し送りなど機会あるごとに情報共有に努めている。	現実的にすべての保護者が対象ではない。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		評価の際にはすべての職員の会議録（評価）と保護者の意見を基に、計画の見直しを行っている。	現状では特に問題はない。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日案、月案共に5領域に沿った内容の活動を策定はしている。	毎日の支援記録にも各利用者の月毎の目標を設定しそれに対する評価を記載するようにはしているが内容が十分とはいえない。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		集団活動の場合正直難しい事の方が多い。専門的支援の場合のみ個別の支援を行い反応は記録している。	個別指導の結果を計画に反映させるプロセスの構築が肝要。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		出来ていると思う。特に「本人支援」「家族支援」については、保護者との連携を密に必要な項目を設定している。	本人支援以外の家族支援、地域支援・地域連携に関しては内容が不十分感が否めない。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動を主導する職員が中心となってプログラムの作成、修正を行っている。	今後は全員、ワンチームで行って行く方向が検討が必要と思われる。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		児童が意欲的に取り組めるような活動を考慮している。	各スタッフからの意見、提案が足りていない為偏ってしまったり、同じ内容になる事がある。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動と集団活動は基本別のカリキュラムとして分けて実施している。	計画の本人支援の内容に従った活動を行っているが、必ずしもすべての対象に当て嵌まるものではない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日の朝、夕のミーティング等により職員全員の意見交換を行っている。その際に役割分担も当然行っている。	役割通りに進行しない場合の対処の仕方について一考が必要と思われる。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		気付きに関しては翌日の支援に優先して盛り込むようにしている。	定期的に利用者毎に指摘のあった項目について集約し、対処のやり方を職員間で共有し実践して行く。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記載する時点で他の職員の意見も反映し記録として残している。	支援記録の記載方法の一本化を図り、問題点を浮き彫りにすることで、計画に反映させる。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		利用者毎に必要な応じたモニタリング期間を設定している。	利用者の進捗状況に応じて、短期でのモニタリングを行い、支援計画の精度を上げて行く。
関係機関や保護者との連携	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		行っている。日常生活における基本的な動作や自立を支援する活動を行っている。	略毎日の活動内容に盛り込んで実施出来ていると思う、しかしあえて地域交流活動が出来ていない実情がある。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		出来ていると思う。一つでも多くの成功体験の積み増しを促せるよう支援を行っている。	活動内容に工夫を凝らし、今以上子供たちが意欲的に関わる活動を増やして行く事が肝要。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本は児発管が参画するが多い。(場合によっては管理者)	特になし。
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		嘱託医を始め利用者のかかりつけ医師とも状況に応じて連携を図っている。(行政も含む)	学校等の関係機関とも協力体制は出来ているものの時間的な問題ですり合わせが難航している現状がある。
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。		○	学校等との連絡調整、情報共有は随時行っている。	実際に出来ている所とそうでない所がある事は否めず。今後も協力体制の構築に努力する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		相談員を通じてが主な情報共有の手段である又、同一法人内の児童発達支援事業所との交流は図れている。	今後も幅を広げて行ければと考える。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	今の所実績がない。	移行支援の準備は出来ている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	センターとの連携は略無い。	以前は月に一回程度のネットワーク会議等は開催されていたが現状は実施されていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	計画的には実施されていないが、園外活動の際や、交流館等利用の際に関わる機会はある。	今後は積極的に発信を行い、機会を設ける事が出来るように努める。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		○	殆ど出来ていないのが現状。	参加出来る機会があれば、今後は積極的に関わって行く。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		面談等は元より、送迎時などお話を出来る機会があれば進んで情報交換を行うように努めている。	SNS等の発信により実際の活動状況を見て頂き理解を深めて貰いたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		必要性を感じる保護者については面談の機会を増やし助言を行うように努めている。	保護者が抱える課題や問題については様々なあり複数の参加による研修会等は開催が難しいが、実現に向けての努力は行いたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		実施している。	運営規定、重要事項等については事業所内に掲示し、常時閲覧は可能。又、問い合わせ等があれば即時対応可。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談時は、細かく説明を行い確認、同意を得ている。	今後は面談時に子供の意見や思いを深く聞き取る対応を広げて行きたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		同意頂いている。	モニタリングの際は、職員一人一人の意見、評価も加味しながら保護者に納得行く説明を行っている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		行っている。	今後も引き続き行っていくが、家庭の事情等繊細な部分も多く含まれる場合がある為対応した個人の意見ではなく、事業所で検討し総意としてお伝えして行く。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	余り出来てはいない。事業所で行う年間のイベント等への参加呼びかけは行っている。その際に参加された保護者同士の交流を促すようにはしている。	曜日と時間設定が難しく一同に会する事は難しい為、開催日を増やし一人でも多くの参加を呼びかけて行く。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		法人全体として対応できる体制は構築している。	今の所苦情等の訴えは無いが、行政、関係機関も含めて広く窓口を活用し対応して行く。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページは元より、インスタ、X等にも発信を行っている。	保護者に存在は周知しているが、反応は薄い為内容を考慮しながら進めて行く。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		遵守している。	コンプライアンス研修等のOJTを行い周知徹底している。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		考えられる範囲、許容内での対応は行っている。	出来る限り保護者の主訴を汲み取り、親子間の意思疎通が図れるようにそれぞれと対話を繰り返すようにしたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域の老人会、老健施設への慰問等は行っている。	今後は事業所の年間行事への招待等を含め広がりを持ってゆきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		行っている。	加えて、緊急時の事態の対応、感染症対策等定期的に委員会を開催し備えを強化して行く。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		行っている。	加えて、緊急時の事態の対応、感染症対策等定期的に委員会を開催し備えを強化して行く。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時のケース会議等で担当者全員で確認を行い、事業所に周知している。	子供の状態を常に細かく観察し、持病のある児童については注意喚起を怠らない。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		職員全体で把握しおやつ等の成分表示にも気を配っている。	保護者各々からかかりつけ医師からの留意事項等も計画書に盛り込んでいる。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		行われている。	定期的な見直しも随時行い、改訂している。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	安全計画については事業所内での取り組みの一環として行っているが家族との連携ツールにはなっていない。	今後は取り組み内容も含めて家族への周知、連携にも繋げていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		常に職員各自気を付けるように心掛けてはいるが、万が一発生した場合には職員全体で共有するようにはしている。	再発防止策については、全員が納得するまで検討を重ねる。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に法人全体を対象に研修会を実施し認識の確認を促している。又、虐待防止委員会も現場で定期的の実施している。	平時における虐待防止を図る為、職員各自がお互いの行動抑止を図り、虐待撲滅を推進して行く。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		計画書に記載する場合、保護者に丁寧な説明を行うようにしている。	万が一拘束事例が発生した場合、同意書も合わせて頂いている。